

NBA/NFL チアリーダーに至る経緯と その後のキャリアに与える影響

The road in becoming an NBA/NFL cheerleader and the influence for their carrer

スポーツマネジメントコース

5018A322-7 延原 雅代

研究指導教員:間野 義之

1. 緒言

日本チアリーダー界において、NBA や NFL などチアの本場である北米 4 大スポーツリーグのチアリーダーとして世界的に活躍する人材が現れたのは 1997 年である。20 年が経過した現在において約 50 名のチアリーダーが北米 4 大スポーツリーグで活動しているが、日本人チアリーダーの世界進出は萌芽期といえる。野球やサッカーその他スポーツなどはグローバル化し海外へ挑戦する選手は多く、また選手の国際移籍に関して高橋・佐々木 (2012) は、日本人スポーツ選手のキャリア形成に及ぼす海外移動の影響についてサッカー、野球およびその他の競技種目の状況を述べている。しかし、世界を経験したチアリーダーにおける、そこに至る経緯や引退後のキャリアについての知見の積み重ねはなく、今後の日本チアリーダー界の発展のためにも重要な示唆を与えうると考えられる。したがって本研究の目的は、NBA/NFL チアを経験したチアリーダーを対象に、そこに至るまでの経路を整理し、またその後のキャリアに影響を与える要因を明らかにする。

2. 研究方法

①NBA/NFL を経験し、②引退した元チアリーダー、という 2 つを属性としてサンプリングした。研究 1 では、対象者 9 名の高校卒業から北米 4 大スポーツリーグのチアを経て現職に至るまでの時間的経緯

を TEM にて図を作成し可視化した。研究 2 では、北米 4 大スポーツリーグのチアに至る前の分岐である、日本スポーツ応援チアとそれ以外のチアチームのそれぞれの経路をたどった 2 名に追加的インタビュー調査を行い、分岐点における決断要因について詳細な情報取得を図った。特に、北米 4 大スポーツリーグのチアのオーディションを開始した時からのデータを詳細に検討し、その間の社会的ガイドと心理的な要因がどのようなキャリアに影響を与えたのかを TEM を用いて分析した。

3. 研究結果

研究 1 の結果、図 1 より、北米 4 大スポーツリーグのチアになる前の分岐が 2 つあり、それぞれチアであるということから、北米 4 大スポーツリーグのチアリーダーになるためには、日本で何かしらのチアの経験をしているということが明らかになった。また、この 2 つの分岐より前の年代やその後のキャリアにおいて、複数の経路があることが明らかになった。

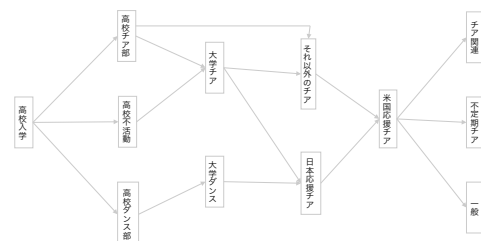


図 1. 高校入学後から北米 4 大スポーツリーグのチアに至る経緯とその後の経緯

研究 2 の結果、対象者 2 名に対して TEM 図をそれぞれ作成し、本研究では等至点を【米国応援チア】、必須通過点を【日本でのチアの経験】、【オーディション受験】、【ビザ取得】として設定し、そこに至る経緯とその後の活動、引退後について個人の体験を可視化した。

4. 考察

研究 1 の結果、北米 4 大スポーツリーグのチアリーダーに至るまでの経路として、高校入学後から、少なくとも何かしらのチアの経験を日本でしているということになる。高校入学後から北米 4 大スポーツリーグチアの直前の分岐より前は、様々な経路があり多様性があると言える。

研究 2 の結果、対象者 2 名の類似点として、そこに至るまでに必須通過点である【日本でのチア経験】、【オーディション挑戦】、【ビザ取得】の場面で、その後のキャリアの選択に際しても人との繋がりによって選択する傾向にあるということが明らかになった。オーディション挑戦から合格し活動する期間に様々な人からのアドバイスも含めた関わりがあること、引退後の仕事の就き方に関しても人との繋がりから決断していることから、それぞれ細かい内容は異なるが人の繋がりによって選択をしている傾向にあると言える。

5. 結論

研究 1 では、9 名のデータから北米 4 大スポーツリーグチアに至りその後のキャリア形成までの TEM 図を作成し、経路を可視化した。その結果、北米 4 大スポーツリーグチアに至るまで、チア以外にも多様な経路があるが、直前の分岐では日本でのチア経験をしているということが明らかになった。また、その後のキャリアにおいて、様々なあるということが明らかになった。

研究 2 では、研究 1 の TEM 図より北米 4 大スポー

ツリーグチアに至る直前の 2 つの経路をたどった 2 名について、分岐点における決断要因についてインタビューによる詳細な情報取得を図った。それぞれ 1 回目のオーディション挑戦から現在までの新たな TEM 図を作成し、様々な場面の社会的なガイドや心理的な要因がどのように働き決断したのかを明らかにした。類似点として、そこに至るまで様々な場面で他者からのアドバイスも多く、その後のキャリアの選択に際しても人との繋がりによって選択する傾向にあるということが明らかになった。また、チームでの活動を通して多くの人と接する経験をしているということも明らかになった。

6. 研究の限界

本研究では当事者のインタビューによって、データを収集している。現在、約 50 名あまりの北米 4 大スポーツリーグのチアリーダーがいる中、詳細な情報取得ができたのは 2 名にとどまった。また、日本人初の北米 4 大スポーツリーグのチアリーダーが誕生して 20 年経った今、日本チアリーダー界を取り巻く環境も変化している。現在活躍している現役の北米 4 大スポーツリーグのチアリーダーは、研究 1 とはまた違った経路で至っているケースも考えられることから、今の現役チアリーダーを含めた経路を明らかにすることを今後の課題にしたい。また、チアリーダーの発祥であるアメリカのみならず、海外のプロスポーツチームのチアリーダーとして日本人が活躍できるということも今後追求していきたいと考える。

7. 今後の展望

本研究では、人数が不十分であると考えられるので、今後さらなる知見を積み重ねながら、人数を増やしていき、より北米 4 大スポーツリーグのチアリーダーに至る経路について、また、その後のキャリアに与える影響について示していく必要がある。